

令和6年度 【学校評価】児童アンケート 調査項目

- ①私は、学校が楽しい。
- ②私は、学校の決まりを守っている。
- ③私には、困ったことがあったら相談できる友だちがいる。
- ④私には、困ったことがあったら相談できる先生がいる。
- ⑤私は、係や当番の仕事をやっている。
- ⑥私は、無言清掃をやっている。
- ⑦私は、下駄箱のくつをそろえている。
- ⑧私は、家の人に学校のようすを話している。
- ⑨私は、学校の授業が分かる。
- ⑩私は、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。
- ⑪私は、授業中に自分の考えを伝えている。
- ⑫私は、家に帰ってから勉強をしている。
- ⑬私は、本を読んでいる。
- ⑭私は、自分からあいさつしている。
- ⑮私は、早寝早起きをしている。
- ⑯私は、朝ご飯を食べて登校している。
- ⑰私は、自分の携帯電話・スマートフォンを持っている。
- ⑱私の家では携帯電話・スマートフォンを使うときのルールがある。

令和6年度学校評価 児童アンケート考察

櫛形北小学校

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

回答数は188名で、在籍児童数198名に対して94.9%の回答率である。

上記の評価基準からすると、【A】【B】の合計が80%を超えている項目は16項目中13項目で、前年度後期の15項目をやや下回る結果となった。そのうちの11項目が90%以上の肯定的評価であり、こちらも昨年度後期を1項目下回っている。これらことから、全体的には良好な結果ではあるものの、昨年度に比べると課題が増えていると考えられる。

逆に、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、その割合が20%を超えている項目は、昨年度後期から2項目増加して、3項目である。また、前年度後期から否定的回答が増加した項目は11項目あり、来年度は全体的な底上げを目指したい。

〔3〕結果の考察

【学校生活】（項目①～④）に関わって

4つの項目全てにおいて昨年度後期をわずかに下回る結果となったものの、「④相談できる先生」以外の3つの項目で90%以上の肯定的評価であった。多くの児童が楽しく決まり良い生活を送れていることが読み取れるが、学校生活における困りごとを相談できる体制や雰囲気づくりを進めるとともに、「あやめっ子タイム」などでていねいにソーシャルスキルを学習しながら、児童相互の関わる力の醸成に努めたい。また、全ての児童が安心した学校生活を送るための目配りや気配りを、これまで以上に行っていききたい。

【確かな学力】（項目⑨～⑫）に関わって

4項目のうち、「⑩授業中に考えを伝える」の項目を除いた4項目で、【A】【B】評価が『満足できる状態』であった。

「⑩授業中に考えを伝える」の項目は昨年度からの課題であるが、【C】【D】評価が減少に転じている。このことについては、昨年度同様に“恥ずかしい”“発表の仕方が分からない”等いくつかの理由が考えられるが、校内研究のテーマとして取り組んだ『学び合い』が各学年の発達段階に応じて実践され、徐々に定着してきたものと考えられる。「⑩自分の考えをもって話を聞く」の項目が依然として高評価なことと併せ、さらに『学び合い』の質的な向上を目指し、自分の考えを他者と伝え合うことが学びの深まりとして実感できるよう、授業改善に努めたい。

「⑫家に帰って勉強」の結果の肯定的評価が昨年度後期をやや下回った。日々の宿題や自主学習への働きかけとともに、家庭の協力体制の元でタブレット端末を有効に活用することで数値の改善を目指すとともに、さらなる学力の向上につなげたい。

【豊かな心】(項目⑤⑥⑦⑧⑬⑭)に関わって

6項目のすべてで【A】【B】評価が80%を超える、『満足できる状態』となった。

橿形地区小中学校が小中一貫教育として取り組んでいる「⑥無言清掃」「⑦靴そろえ」の項目はともに高水準で、特に「⑥無言清掃」の項目では昨年度後期から3ポイント近い伸びを見せている。これは、橿形地区の小中学校で無言清掃と靴そろえのポスターを交換して掲示したり、児童会の活動が本格的に行われたりしたことの成果といえる。

昨年度からの課題である「⑧家で学校の様子を話す」では、昨年度後期よりも【A】【B】評価が下がり、22.3%が【C】【D】評価となっている。各種便りを配付するときなどに、それらを材料に児童が保護者に伝えるよう促すなどの工夫を継続していきたい。

「⑬本を読む」の項目は、わずかではあるが前年度後期を上回った。読書のおもしろさや重要性を伝えるために職員によるお勧めの本の紹介(読み聞かせ)や児童が好きな本を投票するなど、地道に読書教育を充実させてきた成果であり、読書タイムも含めてさらなる定着を目指したい。

「⑭あいさつ」の項目は、前年度後期と同じく肯定的評価が90%を超える高い結果が出た。児童会活動の「あいさつ運動」や「小中連携あいさつ運動」等の取り組みの成果であるが、日常的に自分からあいさつができる児童を目指してさらに指導を重ねたい。

【健やかな体】(項目⑮⑯)に関わって

「⑮早寝早起き」の肯定的評価は79.8%で、昨年度後期よりも減少してしまった。20.2%の否定的評価の児童は、十分な睡眠がとれていないと考えられ不安が残る。このアンケートからではわからないが、慢性的に睡眠不足になっている児童がいないか、注意深くかかわっていききたい。

「⑯朝ご飯」の項目では、肯定的回答が昨年度前期からわずかに減少して95.7%であるが、【D】評価「食べていない」と回答した児童が減少してきている。

育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、保護者の協力なしでは児童の健康な生活は保てない。再度、「早寝・早起き・朝ごはん」の家庭への啓発を行いたい。

【その他】

[項目⑰⑱に関わって]

昨年度後期と比べて携帯電話・スマートフォンの所持率は減少しているが、ルールを設けている家庭が2.3%増加している。昨年度、ルールが曖昧になっていることが危惧されたため、今年度の1学期に「ほっと！ネットセミナー」を開催したことも増加の一因だと考えられる。

便利な情報端末でも、使い方を間違えると、自らの成長を損なったり大きなトラブルに巻き込まれたりしてしまう。携帯電話・スマートフォンを与えている保護者が、児童とルールを決めて守らせていく必要がある。来年度も継続して、学習用タブレット端末の効果的な使い方と併せ、学校と家庭が連携して情報モラルの徹底を図っていききたい。

令和6年度 【学校評価】職員自己評価アンケート 調査項目

- ①あなたは、学校教育目標に基づき、学校や児童・生徒の実態に即した教育実践を行っていますか。
- ②あなたは、P（計画）D（実行）C（確認）A（改善）のサイクルで、教育活動の向上に努めていますか。
- ③あなたは、教職員間において報告・連絡・相談に努め、協力的な取り組みをしていますか。
- ④あなたは、危機管理（防犯・防災・事故等）マニュアルを理解し、指導していますか。
- ⑤あなたは、校務分掌で任された業務に積極的に取り組んでいますか。
- ⑥あなたは、校内研に主体的に関わっていますか。
- ⑦あなたは、諸会議に積極的に参加していますか。
- ⑧あなたは、教材・教具（ICT機器を含む）を効果的に活用する授業を行っていますか。
- ⑨あなたは、児童・生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導していますか。
- ⑩あなたは、授業の始めに児童・生徒に授業のめあてを示していますか。
- ⑪あなたは、授業や単元の終わりに、児童・生徒がめあてを達成しているかを評価していますか。
- ⑫あなたは、児童・生徒理解のために、日頃から様々な方法でコミュニケーションを図っていますか。
- ⑬あなたは、諸問題（いじめ・不登校等）の早期発見・早期対応に努めていますか。
- ⑭あなたは、児童・生徒の規範意識や道徳性を育む指導に取り組んでいますか。
- ⑮あなたは、児童・生徒が進んであいさつするよう指導していますか。
- ⑯あなたは、特別支援教育の理念を理解し、個に応じた関りをしていますか。
- ⑰あなたは、学校の教育活動について、おたよりやホームページを通して保護者や地域に広報していますか。
- ⑱あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか。
- ⑲あなたは、対話を意識した『学び合い』を授業に取り入れていますか。
- ⑳あなたは、深い学びになるよう、課題や発問の工夫をしていますか。
- ㉑あなたは、Simplerプログラムの目的意識を理解して、指導に取り組んでいますか。
- ㉒あなたは働き方改革を意識して、積極的に業務改善に取り組んでいますか。

令和6年度 職員による学校評価 考察

楡形北小学校

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、「㉔働き方改革」を除く21項目で【A】【B】の合計が80%を超える結果となった。また【A】【B】の合計が100%であった項目は、前年度を下回ったものの、半数の11項目であった。

このことから、全体的として良好な状況が継続しており、学校として改善に取り組むことができたと言える。

〔3〕結果の考察

【学校経営・学校運営への参画】(項目①～⑦)に関わって

昨年度後期は5つの項目で100%であったことから比べると下回る結果にはなったものの、①から⑦のすべての項目で、【A】【B】の合計が95%であった。この結果は、多くの職員が、目指す学校教育目標の意味を一つ一つ確実に理解し、目標達成の実現に向かう取り組みが定着したといえる。また、職員一人一人が各自の分掌や役割を十分に理解し業務に専念できているのは、日常的な取り組みやこれまでの行事を通じて、校長を中心とした組織が十分に確立したことによるものである。

しかし、②から⑦の項目で【C】評価があることを振り返り、さらに一丸となって取り組めるよう努めたい。

【学習指導】(項目⑧～⑪)に関わって

「⑩めあての提示」を除く項目において昨年度の評価を上回り、「⑧ICT 機器の活用」を除く項目では【A】評価が増加していることから、概ね授業改善に向けて意識がさらに高まっていると言える。しかし、「⑩めあての提示」においては、【A】評価は増えたものの、【B】評価が減少するとともに【C】評価の回答もあった。めあての提示方法やタイミングなどで試行錯誤を重ねている職員がいると考えられることから、日常的な情報交換やベテラン教師による指導法の伝達など、職員間が切磋琢磨しあえるような職員室の土壌をはぐくみたい。また、単元のまとめにおいて「OPPシート」を活用している職員もあり、その進め方や効果などを共有して、さらなる授業改善の一助としたい。

「⑧ICT 機器の活用」については、職員のICT活用はすでに定着し、さらに効果的な活用方法を模索している段階に入っていると考えられる。今後も、デジタルの個別対応の利便性と従来のアナログによる学びの深まりとの両立を目指していきたい。

【生徒指導・生活指導】(項目⑫～⑬)に関わって

昨年度後期と同様に、「生徒指導」「生活指導」に関する5つの項目は全て【A】【B】評価100%という結果である。これは、継続的に児童理解に努め、日々職員が一人一人に寄り添い、共感的・受容的な対応を心がけている成果である。ただ、「⑬諸問題の早期発見・早期対応」と「⑬個に応じた関わり」の2項目は今日的な課題でもあり、本校の実態も踏まえ、さらに専門性を高められるよ

う全職員で努めていきたい。とりわけ様々な特性をもつ児童への対応は、一人一人の教育的ニーズを把握しつつ、その持てる力を高めて生活や学習上の困難を改善または克服するための、適切な指導及び必要な支援が求められる。本校では、リアルタイムで個々の児童に必要な支援ができるための、情報共有の方法をDX（デジタルトランスフォーメーション）化する工夫も始めている。

早急に結果を求めるのではなく、長期的な視点で支援を継続するとともに、職員集団の専門性をさらに高めるための手段として、ケース会議や研修資料の共有などを充実させていきたい。

【保護者・地域との連携】（項目⑰⑱）に関わって

「⑰情報の発信」は【A】【B】の肯定的評価が100%で昨年度後期と同様であるが、【A】評価が増加している。この部分では、保護者アンケートにおいても肯定的回答が94%となっており、各学年便りの充実とともにホームページがタイムリーに更新されることによるところが大きいと考えられる。

また、「⑱地域人材・施設の活用」においては、【D】評価があるものの、昨年度後期に比べて肯定的評価が増加し、特に【A】評価の数値が大幅に改善された。これは、小笠原流礼法の授業も含め、修学旅行や社会科見学などで市文化財課などから効果的な支援を継続的に受けることができている、児童の学びに必要な不可欠なものとして定着しているからだと考えられる。来年度は、今年度有効に活用できたものを継続し、保護者や地域との連携をさらに工夫していきたい。

【小中一貫教育】（項目⑲～㉑）に関わって

3つの項目すべてにおいて、【A】【B】の肯定的評価が100%となった。その中でも、「⑲『学び合い』」と「㉑発問の工夫」は新学習指導要領でも掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現であり、2つの項目とも【A】評価が昨年度後期を上回る結果となった。特に、「⑲『学び合い』」の項目で肯定的評価が100%となったことは、今年度の校内研究会のテーマであることを考えると、「⑥校内研」の項目で【A】評価が向上していることと併せて大きな成果と言える。今後も実践を重ねて、対話や深い学び、協働的な学習につなげていきたい。

「㉑Slimpleプログラム」も【A】【B】評価が100%となった。「Slimpleプログラム」は、学び合いの基礎基本となる大切な“力”を育むものであり、小中一貫教育の大きな柱でもある。今年度、「Slimpleプログラム」生みの親である曾山和彦氏に、本校の「Slimpleプログラム」についてご指導いただいたことも、職員が自信をもって「Slimpleプログラム」に取り組んでいる一因になっている。今後も、職員が「学び合い」ながら継続して取り組み、互いに認め合うことができる児童の集団を育て、多くの場面で活用できるようにしたい。

最後の項目「㉒働き方改革」は【A】【B】評価70%、【C】評価30%であり、残念ながら昨年度後期を大きく下回り、改善の余地がある状態である。2学期には、日常の学習指導に加え、行事に向けての業務をこなさなければならなかったことや、改革の手詰まり感を感じていることが原因と考えられるが、毎週水曜日を研究会日課（児童が早く下校して職員の時間を創出）に設定するなど、新たな取り組みも進めている。「働き方改革」「多忙化解消」は簡単には改善できないが、職員からアイデアを募るなど、あらゆる教育活動において効率化できないか検証を続けるとともに、確実に無駄のない業務の引継ぎについても改めて確認したい。

令和6年度 【学校評価】保護者アンケート 調査項目

- ①お子さんにとって、学校は楽しいところですか。
- ②お子さんは、授業の内容が分かっていますか。
- ③お子さんは、朝ごはんを食べて登校していますか。
- ④お子さんは、家庭学習（宿題や塾・家庭教師との勉強を含む）をしていますか。
- ⑤お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友だちがいますか。
- ⑥学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。
- ⑦授業参観や運動会・音楽会（学園祭や合唱祭）などの学校行事は、お子さんの様子を知る機会となっていますか。
- ⑧学校（学年・学級）だよりやホームページから教育活動の様子を知ることができますか。
- ⑨学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていますか。
- ⑩学校には教育活動に適した施設・設備が整っていますか。
- ⑪ご家庭では、家族で互いにあいさつをするようにしていますか。
- ⑫お子さんは自分の携帯電話・スマートフォンを持っていますか。（「持っている」と答えた御家庭は⑬へ）
- ⑬携帯電話・スマートフォンを持たせている場合、お子さんと使い方についてルールを決めていますか。
- ⑭ なんでもお気づきな点がありましたらお書きください。

令和6年度学校評価 保護者アンケート 考察

楡形北小学校

〔1〕 評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕 全体的な傾向

上記の評価基準からすると、11項目中10項目で【A】【B】の合計が80%を超えるとともに、そのうち6項目が90%を超える肯定的な評価になっており、いずれも昨年度同様に満足できる状況にあると判断できる。また、【C】【D】の合計が20%を超えている否定的評価の項目は一つもないのだが、全11項目にわたり【E】「分からない」という回答があり、児童の生活の様子をつかみ切れていない保護者の実態も垣間見える。特に「②授業内容の理解」「④家庭学習」では、いずれも前年度に比べて【E】回答の割合がやや増している。

〔3〕 結果の考察

【学校が楽しいか】(項目①)に関わって

【A】【B】評価が90%であり、多くの保護者が子どもにとって学校は楽しいところだと評価している。しかし【C】【D】の否定的評価や【E】「わからない」という評価をする保護者が増加している。家庭での子どもとの関わりからの評価と思われるが、全ての子どもに「学校は楽しい」と言ってもらえるよう日々努めたい。

【子ども理解(学習・友達)】(項目②④⑤)に関わって

「②授業内容の理解」については【A】【B】評価が86%と前年度より2ポイント下回っているものの、【C】【D】の否定的評価が半減したが、【E】「分からない」の回答が10%近くにまで増加した。「④家庭学習」については【A】【B】評価が91%という結果となり、家庭学習の充実が浸透していることが分かるものの、【E】回答が6%となっている。「②授業内容の理解」と「④家庭学習」における【E】回答については、保護者が我が子の授業への理解度や家庭学習への取り組みを把握しにくくなっていると考えられ、タブレット端末の活用に保護者を巻き込むなど、児童の学習の様子がより伝わりながら保護者が家庭学習に関わる方法を模索したい。また、教師の指導力・授業力の向上とともに、これからも学校と家庭が協力して児童の学力向上のために取り組んでいきたい。

「⑤相談できる友だち」では、【E】回答(10%)の結果が表しているように、この項目でも家庭ではなかなか把握しにくい状況があると考えられる。しかし、小中一貫教育で取り組んでいる「Simple プログラム(あやめっこタイム)」や本校の校内研究で取り組んでいる「学び合い」にこつこつと取り組みながら、児童相互の結びつきを強めていくことで、困ったときに助け合える関係づくりにつなげていきたい。

【家庭・地域との連携】(項目⑥⑨⑩)に関わって

「⑥相談できる先生」は【A】【B】評価が前年度をやや上回って80%となり、【C】【D】評価の割合も昨年度から減少した。ただ、【E】回答が微増していることから、これからも、児童や保護者とのコミュニケーションを大切にして教職員への理解を深めてもらうとともに、信頼される教師集団を目指したい。

「⑨保護者・地域住民からの声」の【A】【B】評価は83%であり、前回の結果をやや上回ったものの、【E】回答の大幅な減少とともに【C】【D】の否定的評価が増加した。学校の教育活動を進める上で、家庭や地域との連携は必要不可欠であり、充実した教育活動や児童が安心して学校生活を送れるようにするためにも、家庭や地域から考えを寄せてもらう機会を増やしていくとともに、家庭や地域からのご意見にしっかり耳を傾けながら教育活動を進めていきたい。

「⑩教育活動に適した施設・設備」の項目についても【C】【D】評価が増加しており、引き続き施設・設備の修繕要望を適切に行っていくとともに、施設・設備が有効に使われている場面や改善された部分などを積極的に情報発信していきたい。

【生活習慣】(項目③⑪)に関わって

「③朝ごはん」の項目では【A】【B】評価99%と、昨年度に引き続いてとても高い肯定的評価が得られている。今後も継続した食指導、規則正しい生活習慣づくりの指導を心がけていきたい。

「⑪家族で互いにあいさつ」の項目も【A】【B】評価99%と高評価を得ている。学校や地域のあいさつ運動だけでなく、家庭と連携した実践になっている。あいさつは小中一貫教育としても取り組んでいる項目なので、中学校とも協力しながらさらに充実させていきたい。

【情報発信】(項目⑦⑧)に関わって

「⑦学校行事は、児童の様子を知る機会となっているか」の【A】【B】評価は96%と昨年度と同様の高い結果であった。今後も、児童の様子や学校の教育活動を伝える場として、行事に向かう児童の様子なども発信しながら、学校行事の中身がさらに充実するように努めたい。

「⑧各種通信やホームページから教育活動が伝わるか」についても【A】【B】評価は94%と満足できる結果であった。実際に足を運んでもらうことと合わせ、様々な媒体を通じて情報を発信することが学校の理解につながると考えられる。信頼される学校づくりのために、これからも児童の様子や学校の様子を発信するように努めたい。

【情報端末の所持と使用】(項目⑫⑬)に関わって

スマートフォンなどの所持率は、昨年度とほぼ同程度の27%で、情報端末使用ルールの有無については、88%で昨年度を上回った。タブレット端末の持ち帰りに合わせたルールについて、児童に指導するとともに家庭と共有しながら進めてきたこと、スマホやゲームとのかかわり方を学ぶ講演会「ほっと！ネットセミナー」を実施することができたことがルール定着の一因と考えられる。正しく情報端末を使うことができるよう、今後も継続して家庭と連携していきたい。